



梅ノ辻クリニック
院長・頭痛専門医 山田 洋司

新しい片頭痛予防薬（注射剤）

が処方可能になりました



日常生活に支障があるつらい片頭痛に

お悩みのみなさんに朗報です!!

頭痛にはいくつかの種類があり、はつきりとした原因がないのに繰り返して起こる頭痛を『一次性頭痛』と言います。一次性頭痛の代表的なものに『片頭痛』『緊張型頭痛』『群発頭痛』などがあります。

今回、2021年4月末に発売されたのが、片頭痛を予防する治療薬として処方が可能となった抗CGRP抗体薬（皮下注射剤）です。

片頭痛と診断された方に当クリニックにて処方可能となりました。これまででは内服が主流でしたが、片頭痛の予防薬として1ヶ月に1回皮下に注射をすることによって、普段の痛みの回数や重症度が減ることが期待されています。すでに多くの片頭痛患者さんがその恩恵を受けておられます。「頭痛が良くなって生活が変わった」という声も届くなど、片頭痛治療にパラダイムシフト（大きな変化）が起こることが期待されています。

片頭痛



症状

頭が脈打つようにズキンズキンとする痛みがあります。吐き気や嘔吐をともなうことも多く、頭痛は数時間、ひどい場合は数日続くこともあります。前兆として、光が煩わしく感じたり、目の奥が痛いと感じる方もいます。頭痛時にケンケンをして痛みが増すのは片頭痛の特徴です。女性（特に20〜40歳代）に多く、女性ホルモンと関係しており、月経周期によって頭痛が変動する方も多くいます。

原因

片頭痛が発生するメカニズムとして、現在広く受け入れられているのが「三叉神経血管説」というものです。片頭痛は何らかの原因で脳の血管が拡張し、その拍動にともない、血管周囲を取り巻く知覚神経である三叉神経が刺激されて、頭がズキンズキンと割れるように痛むことが分かっています。このときに重要な役割を果たしているのがセロトニンという物質であり、三叉神経から脳血管に放出されるCGRPです。

片頭痛の特徴

- 片側（両側）に頭痛を感じることもある
- 脈打つような拍動性（ズキンズキン・ドクンドクン）の痛みを感じる
- 仕事や家事に支障をきたす
- 体を動かすと痛みが増す
- 吐き気や嘔吐をともなうことがある
- 光や音に敏感になる



片頭痛は、はつきりした原因が分からず痛みをともなう頭痛です。「片頭痛」という字を見ると頭の片側だけ痛む病気と思われがちですが、そうとも限りません。片頭痛によって仕事や家事、勉強などの日常生活に支障を生じる人の割合が多いのが特

徴です。痛みはつらいですが、痛みが治まると元の生活に戻れることが多いので、病院を受診する人の割合が非常に低いと言われています。頭痛発作に対して市販の薬を飲んで我慢している、というのが片頭痛に悩む多くの方の現状です。



抗CGRP抗体薬とは

- ▶ 薬理的な名称は「ヒト化抗CGRPモノクローナル抗体製剤」
- ▶ 片頭痛発作時の血管拡張や炎症反応の原因とされているCGRP（カルシトニン遺伝子関連ペプチド）という物質の働きをブロックする効果がある
- ▶ 発作（頻度・痛み）の軽減が期待される
- ▶ 副作用が少ない
- ▶ 内服ではなく1ヶ月に1回医療機関で注射をする

治療

頭痛治療には、今の痛みを治す急性期治療と、頭痛の回数を減らしていく予防治療があります。今回予防薬として認可された抗CGRP抗体薬は、費用は少し高くなりますが、それに見合った効果が期待できます。1ヶ月に一度、皮下に注射をすることで、痛みの頻度や重症度が軽減されます。副作用が少ないのも大きな特徴です。頭痛の回数が多く、家事や仕事ができなくなるなど、日常生活が障害されている方に受けていただきたい治療です。まずは梅ノ辻クリニックの頭痛外来にご相談ください。

梅ノ辻クリニック 頭痛外来

診療時間 9:00~12:30 (月~土)
14:00~18:00 (月/木)
13:30~17:00 (火/金/土)

休診 水・午後 / 日 / 祝日 / 年末年始
担当医 院長・頭痛専門医 山田 洋司

お問い合わせ TEL 088-833-4580